



## 第165回芥川賞・直木賞候補作が発表されました！

### 【芥川賞候補作】

石沢麻依「貝に続く場所にて」・くどうれいん「氷柱の声」・高瀬隼子「水たまりで息をする」・千葉雅也「オーバーヒート」・李琴峰『彼岸花が咲く島』

### 【直木賞候補作】

一穂ミチ『スモールワールド』・呉勝浩『おれたちの歌をうたえ』・佐藤究『テスカトリポカ』・澤田瞳子『星落ちて、なお』・砂原浩太郎『高瀬庄左衛門御留書』



## 図書館カレンダー (7月) 20冊・3週間 借りられます

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



## 今月の展示

### # 小説

河合隼雄物語賞

### # 実用書

夏の手づくり

家時間を活用させよう

バラのある生活

梅に親しむ



## 館員おすすめの一冊

『音読教室 現役アナウンサーが教える教科書を読んで言葉を楽しむテクニック』

堀井 美香/著 (カンゼン)

音読は国語の授業や宿題でしたことがある方が多いのではないのでしょうか。本書では、ナレーションの名手であるTBSアナウンサー・堀井美香が「ごんぎつね」「蜘蛛の糸」「雨ニモマケズ」を題材に具体的な読み方を徹底解説しています。音読では物語と一体化し、日本語の音でその世界を表現させます。物語をどのような印象にしたいかによって、日本語の五感の捉え方や発声の仕方も変わってきます。例えば、「ごんぎつね」の「ご」ですが、のどに力を入れて出すどっしりした「ご」なのか、息を少し先の的に当てて出す洗練された「ご」なのか、それとも母音をぼやけさせて色々な意味を持たせる幽玄な「ご」のどれを第一声にするのかによって、物語の印象は変わります。また、「ご」を少し高い調子から「ね」に向かって落とす感じで発声すると、いきおいよくスタートを切る感じになり、「ごんぎつね」とゆっくりねっとりと出すと、意味深で幽玄な感じがします。そして、「ご・ん・ぎ・つ・ね」と一文字ずつを区切って同じ音の文字記号として無機質に発声すると、「タイトル以外の何物でもないですよ」という意味をもってきます。

では、改めてタイトル「ごんぎつね」。あなたはどのように読みますか？(T)



## 新刊紹介



この他にもたくさんあります！  
貸出中の本には予約ができます

『まちづくりと図書館』	大串 夏身	青弓社
『旅がくれたもの』	蔵前 仁一	旅行人
『教養としての日本地理』	浅井 建爾	エクスマレッジ
『病気の科学知識』		ニュートンプレス
『新しい機械の教科書』	門田 和雄	オーム社
『私のいちばん得意な料理、教えます』		家の光協会
『おうちでとれたて!ハーブと野菜』	田代 耕太郎	主婦の友社
『どこからか言葉が』	谷川 俊太郎	朝日新聞出版
『薔薇のなかの蛇』	恩田 陸	講談社
『インドラネット』	桐野 夏生	KADOKAWA
『雨の日は、一回休み』	坂井 希久子	PHP 研究所
『本心』	平野 啓一郎	文藝春秋



## 西館日和

もうすぐ7月7日の七夕です。♪～笹(ささ)～♪の葉～♪さ～らさら～♪と口ずさみながら、色とりどりの七夕飾りや、願い事を書いた短冊を笹の葉につるし、七夕を迎えていた幼い頃を思い出します。大人になってからも七夕が近くなると、天の川を隔てて会えなくなった織姫と彦星、今年は会えるかなと天気予報が気になります。七夕の夜空に輝く天の川を見上げることができた時は、「会えてよかったね」と安堵した気持ちになります。梅雨入りが早かった今年の七夕のお天気はどうでしょうか。晴れの日を願い、晴れた時は星空を見上げて織姫と彦星を探してみましょう。短冊に願い事を書いてみるのもいいですね。図書館には七夕の絵本や星の本があります。織姫や彦星の話、七夕飾りや七夕まつりについての本を手にして、七夕を迎えるのもいいかがでしょうか。

七夕が過ぎ、梅雨が明けると、真っ白な入道雲と青い空の夏本番です。十分な水分補給と適度の塩分摂取など、暑さ対策を心がけてください。

図書館では窓を開けての換気など、引き続き新型コロナウイルス感染防止のための取り組みを行っています。どうぞご理解とご協力をお願い致します。 分館長 野下